

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成30年度終了時点（平成31年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成20年度にスタートした第1期計画（計画期間：5年）から積極的に行っている民間活力の導入による官民連携の取り組みが平成25年度からの第2期計画（計画期間：5年）においても継続して行われ、それぞれの計画に位置付けた全ての目標指標の目標値を達成することができ、第1期計画で掲げた目標指標（「宿泊客数」「公共施設利用者数」）も継続的に調査した結果、それぞれ大きく増加している。特に居住人口については、子育て世代を中心に増加しており、第1期計画の基準値に対し最新値（平成30年12月31日）では1,832人増加している。また、平成27年からは路線価の上昇率が4年連続県内トップになるなど不動産価値も上昇している。

その一方で、市民意識調査では中心市街地に対する満足度が改善傾向にあるものの、生鮮産品を扱うスーパーや日用品店舗の不足、夜間における風俗営業店舗（接待飲食店）の増加などから、依然として「不満」を感じる割合が高く、事業者ヒアリングなどからは市街地再開発事業の遅れや核となる施設の不足、古い街並みや建物の立地などから駅北地区の魅力が低下しておりJR藤枝駅南北において活性化の格差の指摘や、昼間人口の流出から昼間の人通りが少なく活気や回遊が乏しいなど新たな課題が浮き彫りとなった。

このような新たな課題を解決するため、またこれまでの成果や効果をさらに向上させるため、さらには社会潮流への対応や市政方針との整合を図り、中心市街地が永続的に発展するよう、平成30年4月から新たに第3期計画（計画期間：5年）をスタートさせた。『質の高い暮らし 溢れる賑わい しずおか中部の生活・交流拠点』をまちづくりのテーマに掲げ、4つの目標・目標指標を達成するため、「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」の推進による都市機能の集積や「街なかストックリノベーション事業」により魅力ある商業やサービスなどの店舗の出店促進により、生活利便性の向上やエリアの求心力を高めていく。また、「大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画」の取り組みや「駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業」、「街なかシェアサイクル構築事業」などの実施により、賑わい創出と回遊性の向上を図っていく。

これらに取り組んだ結果、計画初年度で全ての目標指標が基準値をクリアすることができた。引き続き、計画に位置付けた活性化事業を推進することでこれまでの計画同様、目標を全て達成し基本方針である「付加価値の向上による、質の高い暮らし」と「活動・交流の促進による、賑わい溢れるまち」の実現を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
人口	10,670	10,855				
人口増減数	41	185				
自然増減数	▲3	▲3				
社会増減数	3	198				
転入者数	706	1,010				

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

計画初年度において、4つの目標指標全てが基準値を上回っており、実際に中心市街地の活性化が進んでいると感じる。特に「藤枝駅前一丁目8街区第一種市街地再開発事業」や民間のマンション整備事業の竣工により居住人口が大幅に増えたほか、マンションの住民や同市街地再開発事業で完成した市営藤枝駅北口駐車場の利用者を中心に昼間の歩行者通行量が確実に増加していることを実感している。併せて、手探り状態で始めたイベントも10年以上にわたり継続して開催することで、近年では民間企業も独自に実施するなど、恒常的にまちの賑わいが創出されている。

また、全国で空き店舗が増加しているという状況下で、本市では特に駅南地区で減少傾向にあり、都市としての魅力やステータスが向上し、中心市街地が活性化している証であると考え。 「空き店舗開業支援事業」の補助金をはじめとした行政の取り組みや民間との連携が非常にうまくいっていることから、商業者にとっても魅力的な街になってきている。

一方で、JR藤枝駅に近い大型テナントは賃料が高く入居し難い状況であったり、従業員用の駐車場が確保出来なかったりという課題が浮き彫りになっている。また、前記市街地再開発事業（平成30年4月施設グランドオープン）の効果が中心市街地全体にまだ十分に波及しておらず、今後いかにしてエリア全体さらには市全体に波及させていくかが課題である。昼間の歩行者通行量についても、居住人口の増加による効果だけでは限定的であるため、中心市街地エリア内にビジネスや雇用を生み出す取り組みがさらに必要であると考え。

今後は、増加する居住人口を商店街への誘客に繋げる各商店街の連携した取り組みやリノベーションによる魅力ある店舗の出店促進を図るとともに、藤枝駅南口に地域住民が待ち望んでいるスーパーマーケットのオープンにより、中心市街地の魅力はさらに増していくと期待している。中心市街地活性化基本計画の取り組みにより、行政だけでなく民間企業も積極的に参画するようになってきたため、行政と民間、地域が綿密に連携し、今後も中心市街地の活性化に取り組んでいきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
都市機能集積による生活利便性の向上	居住人口 [社会増]	93 人/年 (H25～H28 の平均)	103 人/年 (H30～R4 の平均)	198 人/年 (H30)	A	-	③
個性的で魅力ある店舗の出店促進によるエリアの求心力向上	空き店舗数	49 件 (H28)	36 件 (R4)	46 件 (H30)	B	-	①
街なかの活動・交流機会の創出による昼間の賑わいの向上	昼間の歩行者 通行量	7,356 人/日 (H29)	8,020 人/日 (R4)	7,380 人/日 (H30)	B	-	③
中心市街地外との連携による街なかへの集客力の向上	イベント 来場者数	53,319 人/年 (H28)	62,000 人/年 (R4)	53,833 人/年 (H30)	B	-	①

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「居住人口[社会増]」については、第1期計画による取り組み効果（土地区画整理や公園等の住環境整備、図書館や映画館等の生活に付加価値をもたらす施設整備など）や、第2期計画による取り組み効果（「藤枝駅前一丁目8街区第一種市街地再開発事業」や「田沼一丁目3地区マンション整備事業（49戸）」の竣工や中心市街地のタウンプロモーション強化の取り組み、各種イベントの実施）により、“住む場所”としてのブランド力が向上した結果、分譲マンションや戸建て住宅の供給などの民間投資が旺盛で、販売も堅調であることから、中心市街地が定住拡大の大きな受け皿となっている。また、第3期計画の「田沼一丁目16地区賃貸マンション整備事業（28戸）」の竣工により、転入者が増加し基準値を上回った。今後は、「田沼一丁目3地区マンション整備事業（97戸）」が平成31年3月に竣工したことによる増加やその他2つの民間分譲マンション事業（95戸、50戸）も予定されており、目標達成は可能と見込まれる。なお、デベロッパーへのヒアリング結果では、JR藤枝駅周辺では年間100戸クラスに分譲マンションが立地するマーケットがあることが判明している。

「空き店舗数」についても第1期及び第2期計画の取り組みによる居住人口の増加や開発の期待感から注目度が高い状況下で、「空き店舗開業支援事業」の実施により空き店舗や空きテナントに9店舗が出店したことから、基準値を上回った。引き続き同事業を継続するとともに、初年度にリノベーションまちづくり構想やガイドブックを作成し推進体制を構築した「街なかストックリノベーション事業」の継続実施により、目標達成が可能と見込まれる。

「昼間の歩行者通行量」については、「大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画」により、静岡産業大学の駅前キャンパスや藤枝市産学官連携推進センターがオープンし、「食メディア研究展開事業」の実施や学生や市民向けのビジネス啓発セミナーの開催などや、ICTで人の流れを呼び込むまちづくりの取り組み、「田沼一丁目16地区賃貸マンション整備事業」の竣工などにより、昼間の歩行者が増加し基準値を上回った。今後は、同駅前キャンパスや市産学官連携推進センターでの取り組みを継続するとともに、「居住人口[社会増]」と同様、「田沼一丁目3地区マンション整備事業」の竣工やその他2つの民間の分譲マンション事業が予定されていること、平成31年1月に静岡県が本市の要請により初指定した「第二種大規模小売店舗立地法特例区域」により支援している「田沼一丁目18地区商業施設整備事業」が本年12月上旬にオープンを予定していることから、目標達成が可能と見込まれる。

「イベントの来場者数」については、「駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業」の実施や中心市街地地域外のイベントとの連携などにより、順調に増加しており基準値を上回った。今後も継続して取り組むとともに、「青木地区回遊型イベント事業」などの新規事業や移動利便性や回遊性が向上する「街なかシェアサイクル構築事業」の拡大により、目標達成が可能と見込まれる。

なお、「居住人口[社会増]」と「昼間の歩行者通行量」の主要事業である「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」が合意形成に時間を要し遅延しているため、取り組みの進捗状況は予定どおりではないという見通し評価である。

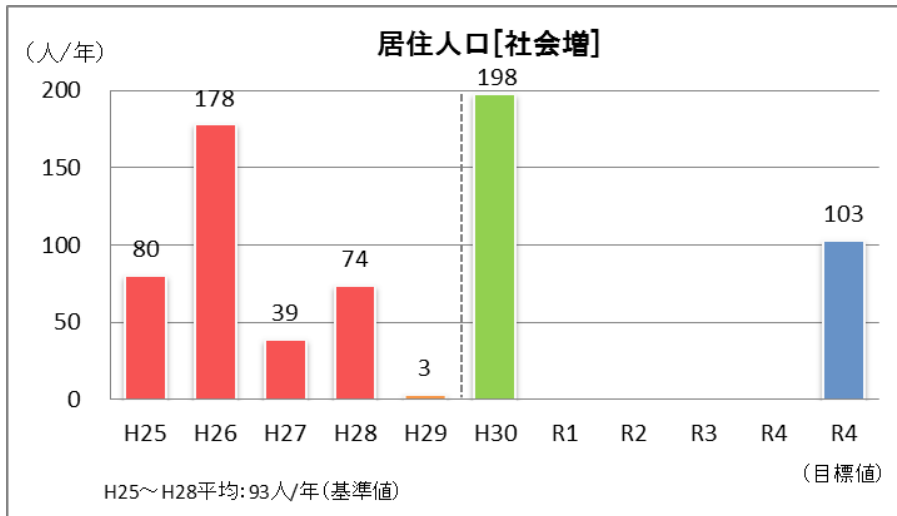
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない（フォローアップ初年度）

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「居住人口[社会増]」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 74～P. 77 参照

●調査結果の推移



年	(単位: 人/年)
H28	93 (基準年値)
H29	3
H30	198
R1	
R2	
R3	
R4	
R4	103 (目標値)

※調査方法: 住民基本台帳より集計

※調査月: 平成30年12月

※調査主体: 藤枝市

※調査対象: 中心市街地区域内の居住者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業 (再開発組合)

事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	準備組合にて実施中。権利者の合意形成に時間を要し、事業化に至っていない状況。ただし、多方面からのアプローチや第2期計画の「藤枝駅前一丁目8街区第一種市街地再開発事業」の竣工などにより、合意形成が非常に進捗している。完了後には、269人の居住人口[社会増]の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和元年度末の都市計画決定を目指す。

②. 田沼一丁目3地区マンション整備事業 (静岡鉄道株式会社)

事業実施期間	平成29年度～平成31年度【実施中】
事業概要	利便性の高い立地特性を活かした分譲マンションの整備
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進	平成31年3月に竣工し、平成30年度から2ヶ年の販売計画。竣

捗状況	工時点で97戸のうち約6割を販売済みで計画どおり順調に進捗。完了後には、220人の居住人口[社会増]の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和元年度末までに残り約4割を販売予定。

③. 田沼一丁目16地区賃貸マンション整備事業（株式会社クラスト）

事業実施期間	平成29年度～平成30年度【済】
事業概要	利便性の高い立地特性を活かした賃貸マンションの整備
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度に竣工・入居開始。28戸全入居済み。1Kマンションのため、基本計画に記載したとおり28人の居住人口の増加。
事業の今後について	好立地で周辺では少ない1K賃貸マンションのため、継続して入居が見込める。

④. 子育てファミリー移住定住促進事業（藤枝市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	子育てファミリーが市内で新築住宅を建築又は購入する際に要する経費や、市外に居住する子育てファミリーが市内の新築住宅に移転する際に要する経費に対して助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地においては5件の利用があり、基本計画に記載の約25人/年（1年：11世帯×2.24人/戸）に対し、18人の増加を記録。計画終了時には、123人の居住人口[社会増]の増加を見込んでいる。
事業の今後について	継続実施することで、子育てファミリーの市外から市内への移住促進や現市民の市外への流出防止を図る。

⑤. 空き家活用・流通促進事業（藤枝市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	市内の空き家の取得、改修及び移転に要する経費に対して助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地においては1件の利用があり、計画書に記載の約3人/年（1年：1世帯×2.24人/戸）に対し、2人の増加を記録。計画終了時には、11人の居住人口[社会増]の増加を見込んでいる。
事業の今後について	継続実施することで、市内の空き家の有効活用及び流通促進を図る。

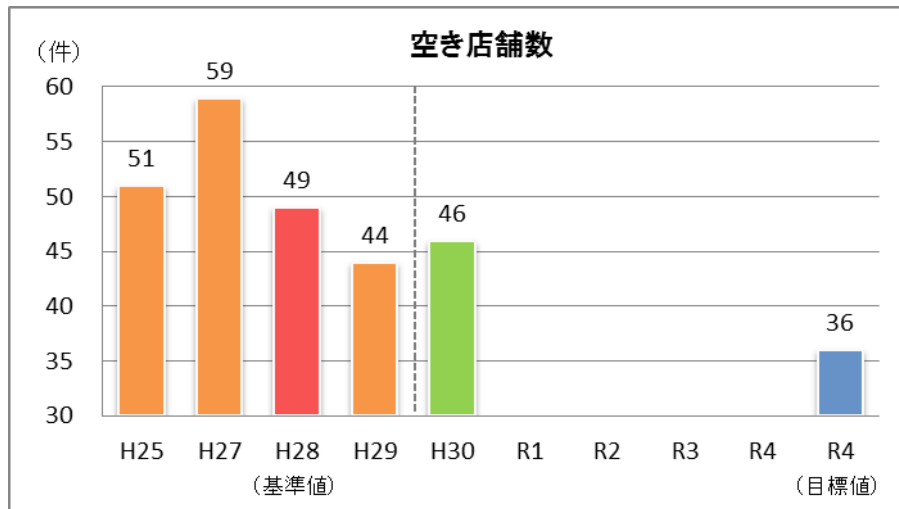
●目標達成の見通し及び今後の対策

初年度は、198人の社会増となり、基準値を大幅にクリアし、目標値も現時点では達成した状況である。

「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」が遅延しているが、他の主要事業は概ね順調に進捗しており、民間の分譲マンション2棟の立地が予定されていることもあり、目標達成は可能だと思われる。引き続き街なか居住の推進を図るため、「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」のさらなる推進と「子育てファミリー移住定住促進事業」や「空き家活用・流通促進事業」などのソフト事業の継続展開により、着実に目標を達成させる。

「空き店舗数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 78～P. 79 参照

●調査結果の推移



年	(単位：件)
H28	49 (基準年値)
H29	44
H30	46
R1	
R2	
R3	
R4	
R4	36 (目標値)

※調査方法：各商店街へ調査票送付

※調査月：平成31年3月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：中心市街地区域内にある5商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗開業支援事業（藤枝市）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	商店街の空き店舗などへの出店者に対する改装費の一部助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	9店舗の出店があり、基本計画に記載の3件/年を大幅にクリアした。計画終了時には、15件の空き店舗への出店を見込んでいる。
事業の今後について	継続実施することで、空き店舗の減少により快適で魅力的な商業空間と回遊性が創出される。

②. 街なかストックリノベーション事業（株式会社まちづくり藤枝）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	リノベーションによるまちづくりを推進するため、空き店舗などへの出店に向けたプロセスや開業の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	リノベーションまちづくり構想やガイドブック（リノベーションの進め方）の作成、推進体制の構築を図った。計画終了時には、2件の空き店舗への出店を見込んでいる。
事業の今後について	様々な媒体を活用した積極的な情報発信やモデル事業の実施などを通じて、リノベーションによるまちづくりを推進し、空き店舗の減少を促進させる。

③. リノベーション総合支援事業（株式会社まちづくり藤枝、その他民間事業者）

事業実施期間	平成30年度～【未】
事業概要	リノベーションによるまちづくりを推進するため、リノベーションスクールの開催、リノベーションのモデル事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	株式会社まちづくり藤枝や民間事業者との協議や、先進地視察などを通じて、リノベーションによるまちづくりの推進方法については、実効性の高い「街なかストックリノベーション事業」を中心に実施していくことで検討中。計画終了時には、5件の空き店舗への出店を見込んでいる。
事業の今後について	「街なかストックリノベーション事業」をさらに推進し、モデル事業などを実施することで空き店舗の減少を図っていく。当該事業については、前記事業との統合もしくは新たな事業の実施により変更することを検討。

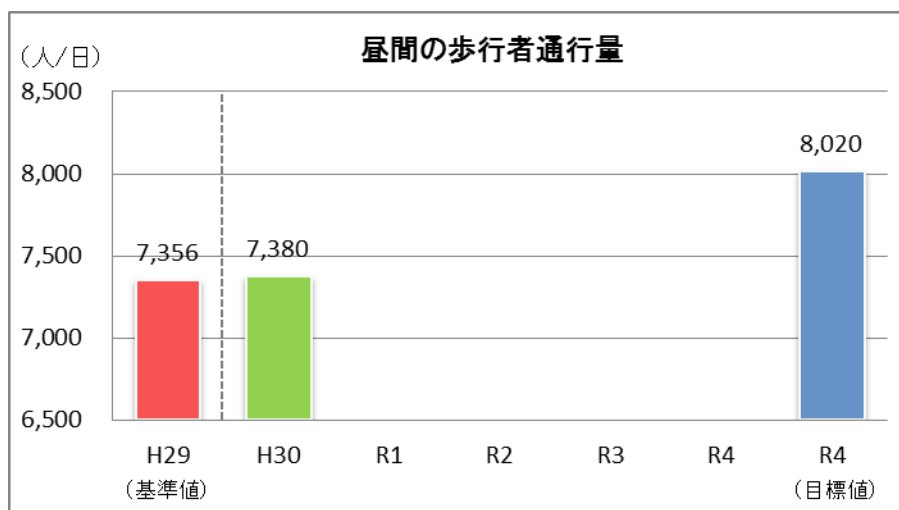
●目標達成の見通し及び今後の対策

初年度は、空き店舗が3件減少し、基準値をクリアした。

主要事業は概ね順調に推進しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、主要事業である「空き店舗開業支援事業」や「街なかストックリノベーション事業」を中心に事業の見直しなどを行い、さらに推進することで空き店舗が減少するよう、目標達成に向け最大限努力していく。なお、平成29年度に対し、2件空き店舗が増加しているが、減少傾向であり、引き続き主要事業を中心に積極的に展開していく。

「昼間の歩行者通行量」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 80～P. 85 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H29	7,356 (基準年値)
H30	7,380
R1	
R2	
R3	
R4	
R4	8,020 (目標値)

※調査方法：夏季及び冬季の平日・休日それぞれ9時～17時計測し、平均値を調査

※調査月：平成30年8月、平成31年2月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：JR 藤枝駅南北主要8地点における歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画
(藤枝市、藤枝市産学官連携推進協議会)

事業実施期間	平成29年度～平成31年度【実施中】
事業概要	大学駅前キャンパスと一体的に整備した藤枝市産学官連携推進センターを拠点に、情報ビジネスの創出、人材育成、雇用マッチングなどを行う。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成29年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	静岡産業大学藤枝駅前キャンパス及び市産学官連携推進センターの利用率が上向いており、平成30年度のセンターの利用者は28,000人を超え、前年度と比較すると約20,000人増加している。これらに呼応する形で駅南地区では基準年に比べ266人歩行者通行量が増加しており、本事業が寄与している。計画終了時には、43人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	静岡産業大学では藤枝駅前キャンパスでの講義を増やす方向で検討しており、また食メディアラボにおいても継続した取り組みにより、さらなる利用者増が見込まれ、昼間の歩行者増に寄与する。

- ②. 藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】

事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	準備組合にて実施中。権利者の合意形成に時間を要し、事業化に至っていない状況。ただし、多方面からのアプローチや第2期計画の「藤枝駅前一丁目8街区第一種市街地再開発事業」の竣工などにより、合意形成が非常に進捗している。完了後には、232人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和元年度末の都市計画決定を目指す。

③. 空き店舗開業支援事業（藤枝市）【再掲】

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	商店街の空き店舗などへの出店者に対する改装費の一部助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	9店舗の出店があり、基本計画に記載の3件/年を大幅にクリアした。計画終了時には、3事業（③④⑤）合計128人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	継続実施することで、空き店舗の減少により快適で魅力的な商業空間と回遊性が創出される。

④. 街なかストックリノベーション事業（株式会社まちづくり藤枝）【再掲】

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	リノベーションによるまちづくりを推進するため、空き店舗などへの出店に向けたプロセスや開業の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	リノベーションまちづくり構想やガイドブック（リノベーションの進め方）の作成、推進体制の構築を図った。計画終了時には、3事業（③④⑤）合計128人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	様々な媒体を活用した積極的な情報発信やモデル事業の実施などを通じて、リノベーションによるまちづくりを推進し、空き店舗の減少を促進させ、昼間の歩行者通行量増加につなげる。

⑤. リノベーション総合支援事業（株式会社まちづくり藤枝、その他民間事業者）【再掲】

事業実施期間	平成30年度～【未】
事業概要	リノベーションによるまちづくりを推進するため、リノベーションスクールの開催、リノベーションのモデル事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業効果及び進捗状況	株式会社まちづくり藤枝や民間事業者との協議や、先進地視察などを通じて、リノベーションによるまちづくりの推進方法については、実効性の高い「街なかストックリノベーション事業」を中心に実施していくことで検討中。計画終了時には、3事業（③④⑤）合計128人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	「街なかストックリノベーション事業」をさらに推進し、モデル事業などを実施することで空き店舗の減少を図っていく。当該事業については、前記事業との統合もしくは新たな事業の実施により変更することを検討。
⑥. 藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】	
事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	準備組合にて実施中。権利者の合意形成に時間を要し、事業化に至っていない状況。ただし、多方面からのアプローチや第2期計画の「藤枝駅前一丁目8街区第一種市街地再開発事業」の竣工などにより、合意形成が非常に進捗している。完了後には、3事業（⑥⑦⑧）合計150人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和元年度末の都市計画決定を目指す。
⑦. 田沼一丁目3地区マンション整備事業（静岡鉄道株式会社）【再掲】	
事業実施期間	平成29年度～平成31年度【実施中】
事業概要	利便性の高い立地特性を活かした分譲マンションの整備
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成31年3月に竣工し、平成30年度から2ヶ年の販売計画。竣工時点で97戸のうち約6割を販売済みで計画どおり順調に進捗。完了後には、3事業（⑥⑦⑧）合計150人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和元年度末までに残り約4割を販売予定。
⑧. 田沼一丁目16地区賃貸マンション整備事業（株式会社クラスト）【再掲】	
事業実施期間	平成29年度～平成30年度【済】
事業概要	利便性の高い立地特性を活かした賃貸マンションの整備
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業効果及び進捗状況	平成30年度に竣工・入居開始。28戸全入居済み。1Kマンションのため、基本計画に記載したとおり28人の居住人口の増加。完了後には、3事業(⑥⑦⑧)合計150人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	好立地で周辺では少ない1K賃貸マンションのため、継続して入居が見込める。
⑨. 地元企業ICT導入促進事業(藤枝ICTコンソーシアム)	
事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	地元中小企業に向けたICT導入促進セミナーの開催、ICTの導入に向けたコンサルティングなどにより、地元産業のICT化を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金(内閣府)(平成29年度～令和2年度)
事業効果及び進捗状況	ICT導入促進セミナーを5回開催し、245人が参加(全体では6回開催430人参加)。計画終了時には、4事業(⑨⑩⑪⑫)合計20人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	継続実施し、AIやキャッシュレスの導入に向けたメニューを新たに加え、さらに参加者が増加するよう事業展開していき、ICTで人の流れを呼び込むまちづくりを推進する。
⑩. ICT活用エキスパート養成事業(藤枝ICTコンソーシアム)	
事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	高校生から社会人を対象に実践的なICT教育の講座を開設し即戦力で活躍できる人材を育成する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金(内閣府)(平成29年度～令和元年度)
事業効果及び進捗状況	平成30年度は幅広い年代・レベルに応じた6種の講座を開催し、のべ144人が参加。計画終了時には、4事業(⑨⑩⑪⑫)合計20人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	クラウドソーシング活用で収入を得られる人材の育成に向けた講座を新たに加え、さらに参加者が増加するよう事業展開していき、ICTで人の流れを呼び込むまちづくりを推進する。
⑪. 藤枝クラウドソーシング運営事業(藤枝ICTコンソーシアム)	
事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	独自のクラウドソーシングシステムの構築・運営と、仕事の担い手となるワーカーを育成する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金(内閣府)(平成29年度～令和2年度)
事業効果及び進捗状況	藤枝版クラウドソーシングシステム“藤枝くらシェア”を構築し平成30年5月より本格稼働。200人弱までワーカー登録数が増加

	している。計画終了時には、4事業（⑨⑩⑪⑫）合計 20 人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	広域事業（静岡県中部5市）としてもクラウドソーシングを推進する動きがあり、裾野の拡大が見込まれることから、当システムのプロモーションとワーカー育成を加速させ、ICTで人の流れを呼び込むまちづくりを推進する。
⑫. 街なかシェアサイクル構築事業（株式会社まちづくり藤枝、藤枝市）	
事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	駅周辺及び市内主要拠点におけるIoTを活用した次世代レンタルサイクルシステムを整備・運営する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成29年度～平成30年度） 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（藤枝市中心市街地地区））（国土交通省）（平成31年度～令和2年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（平成29年度～令和元年度）〕
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、ステーション5カ所とアシスト付電動自転車12台を増やし、それぞれの累計が11カ所、28台で事業実施。利用登録者数は、当初（前年度）実施月（平成30年3月）に比べ平成30年度末月で4倍となっている。計画終了時には、4事業（⑨⑩⑪⑫）合計 20 人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	ステーション及びアシスト付電動自転車の更なる拡充により、移動利便性や回遊性の向上を図り、昼間の歩行者増に寄与する。
⑬. 田沼一丁目18地区商業施設整備事業（静岡鉄道株式会社）【平成30年度追加】	
事業実施期間	平成30年度～平成31年度【実施中】 〔認定基本計画：平成30年度〕
事業概要	JR藤枝駅でマンションの立地が進む中、不足する生鮮食品を扱うスーパーマーケットを中心とした商業施設の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	主要事業である「藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業」の遅れにより、目標を達成するために新たに事業を追加した。工事着手の手続きに時間を要すとともに、東京オリンピック等の影響から建築資材（「鉄骨」「ハイテンションボルト」）の不足により、工事着手が大幅に遅れ、平成30年度中に完成することができなかった。完了後には、161人/日の昼間の歩行者通行量の増加を見込んでいる。
事業の今後について	平成31年4月9日に工事着手し、令和元年12月上旬にオープン予定。地域住民が非常に期待しており、昼間の歩行者通行量の増加に大きく寄与する。

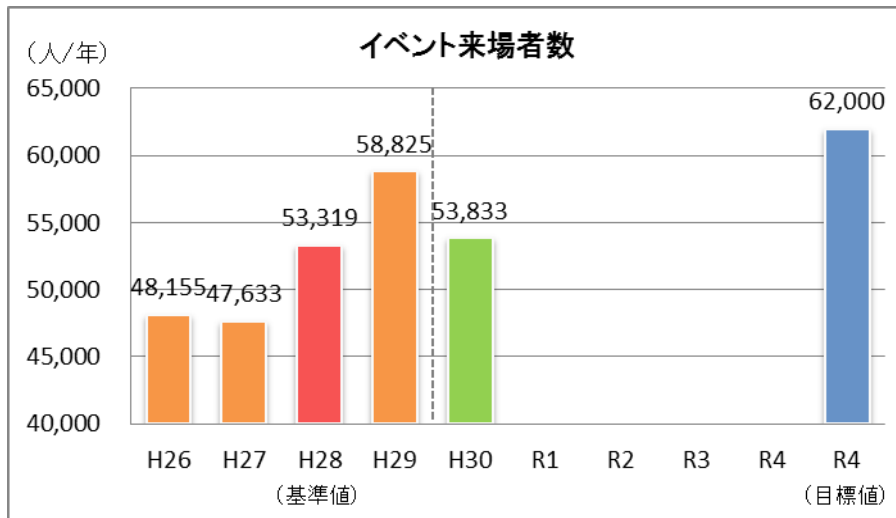
●目標達成の見通し及び今後の対策

初年度は、24人/日増加し、基準値をクリアした。

主要事業は概ね順調に推進しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、主要事業である「大学を核に、情報ビジネスで人の流れをつくる藤枝“活動・交流都心”創造計画」の推進や住宅供給に関する事業による分譲マンションの完成、追加事業の「田沼一丁目18地区商業施設整備事業（実施主体である静岡鉄道㈱が県内で展開する最大規模のスーパーマーケット）」のオープンなどにより、大幅な増加が見込まれる。

「イベント来場者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 88 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H28	53,319 (基準年値)
H29	58,825
H30	53,833
R1	
R2	
R3	
R4	
R4	62,000 (目標値)

※調査方法：中心市街地区域内のイベント来場者数を集計

※調査月：通年

※調査主体：藤枝市・(株)まちづくり藤枝

※調査対象：中心市街地区域内のイベント来場者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 街なか物産市開催事業（民間事業者）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	駅周辺広場や道路空間等の活用による野菜等の物産市の開催
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年9月30日に駅南地区のメイン通りで開催予定であったが、台風直撃によりやむを得ず急きょ取りやめとなった。事前の告知から前評判が良かっただけに残念な結果となった。計画終了時には、1,200人のイベント来場者数の増加を見込んでいる。
事業の今後について	次年度以降開催できるよう引き続き実施主体に働きかけ、駅周辺に不足する買い物の楽しさの実感や買い物弱者対策とともに、イベント来場者数の増加に寄与する。

②. 青木地区回遊型イベント事業（民間事業者、青木まちづくり委員会、株式会社まちづくり藤枝）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	青木地区内の民間事業者の連携による回遊型イベントの開催
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	青木地区の集客拠点施設である青木中央公園にてこれまで未実施であった初の賑わい創出イベントをまずは(株)まちづくり藤枝と周辺自治会とで開催し、周辺の民間拠点施設と連携したイベントの開

	催を計画したが、周辺自治会との協議が進まず断念した。計画終了時には、250人のイベント来場者数の増加を見込んでいる。
事業の今後について	周辺の民間拠点施設の事業者は賑わい創出イベントの開催に非常に協力的であるため、次年度以降、同事業が開催できるよう、(株)まちづくり藤枝を中心に引き続き働きかけをするとともに支援していく。

③. 駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業（藤枝市、株式会社まちづくり藤枝、実行委員会等）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	道路空間及び駅周辺広場、公園等の既存ストックの有効活用による賑わい創出イベントやイルミネーションなどの実施。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（藤枝市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	平日イベントの開催としては、駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業のうち、JR藤枝駅前広場を活用した「love local MARKET」を実施。基本計画に記載の4,800人（4回/年×1,200人/回）を上回り、5,709人（5回開催）の来場者を記録した。
事業の今後について	継続実施するとともに民間事業者と連携し、ターゲットやテーマなど創意工夫しながら、さらにイベント来場者数を増加させ、賑わい創出を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

初年度は、514人増加し、基準値をクリアした。

主要事業は概ね順調に推進しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、悪天候により実施できなかった新規イベント「街なか物産市開催事業」などの実施により、さらにイベント来場者の増加が見込まれる。なお、平成29年度に対し、約5,000人のイベント来場者数の減少が見られるが、これは駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業においてイベントの内容により来場者の増減があったことと、3回のイベントが開催中の悪天候により来場者数が減少したことが主な要因と考えられる。引き続き主要事業を中心に積極的に推進していき、中心市街地の賑わい創出を図っていく。